



《発行所》

曹洞宗中国管区教化センター
〒722-0033尾道市東土堂町17-29
TEL.0848-25-2855
FAX.0848-25-4148
心の電話:0848-25-2860

《印刷所》

プリントショップ・トウ
TEL&FAX.084-926-2304

目次

統監あいさつ	2
教化主事あいさつ	3
誌上法話	6
サマーセミナー	8
禅をさく會	10
布教協議会・講習会	9
青少年教化指導者研修会	7
婦人会	11
集中伝道	12
行事予定・他	13
	14
	15

平成十六年度
布教教化に関する告諭

私たちは、21世紀という言葉に限りない夢を抱いた時がありました。しかし、地球規模で進む環境破壊後、後を絶たない民族や宗教の紛争やテロ。国内では、夢や希望を持って生きている人を失い、自らの命を絶つ人が年間3万人を越え、刹那的な享樂に時を過ごしている若者も多く、さらには、幼子たちの痛ましい事件が後を絶ちません。

このような時代に、曹洞宗の教えに生きる私たちは、どのような信仰の生活を送るべきでしょうか。

私たちが読誦しています『修証義』に、「同事というは不違なり、自にも不違なり、侘(他)にも不違なり」という教えがあります。

「同時」とは、協力して事をなすこと。「不違」とは、違わないこと。つまり、自己と自己を囲むすべての人やもの間に垣根を作らないことです。

私たちは必ず何かと繋がりをもっていて、それは人であったり、自然であったりします。だからこそ、人を敬う心や自然を大切にすることを忘れたとき、むやみに人と争ったり、自分の都合だけで自然を傷つけることが起ころのです。

今こそ、私たちは、皆と共にもに仏の教えにかなうた「同事行」を実践してまいりましょう。

殺すことなかれ 殺させることなかれ
差別することなかれ 差別を許すことなかれ
美しき地球と未来を 子どもたちに

この願葉がんぎようを実践することこそが、私たちの信仰生活にほかなりません。今日、ただ今から、その実現のための一歩を進めようではありませんか。

南無釈迦牟尼仏

平成十六年度
布教教化方針

正法の興隆と曹洞禅の宣揚を願い、信心の確立を促し、教化施策である、「人權・平和・環境」の展開を図るため、次のごとく、布教教化方針を定める。

- 一、仏法僧の三宝に帰依し、一仏両祖を奉祀して、宗門の教えを弘め、曹洞宗檀信徒としての正しい信仰を育てる。
- 二、本尊「南無釈迦牟尼仏」の唱名を弘める。
- 三、一人ひとりの人権を尊重するとともに、あらゆる差別の撤廃のための啓発教化と反差別行動に取り組む。
- 四、戦争の惨禍を直視し、いのちの尊厳を自覚して、世界平和の実現に向け更なる努力を続ける。
- 五、地球環境をまもり自然と共に生きていく、曹洞宗の「グリーン・プラン」運動を展開する。
- 六、布教綱領である「まごころに生きる」の実践として、坐禅会、授戒会修行、国際布教、ボランティア活動を推進する。

統監挨拶 センター設立三十周年を迎えて

光善寺住職 松原徹心



ご免下さい。今年度も茲に言上させていただきます。まずは、旧年度にたまりました数々の御道情に職員共々有難く拝し御礼申し上げます。

当センターも設立愈々三十周年を迎えます。就きましては本庁の指示を基に管区長老師をはじめ各宗務所長老師のご助言を頂き、この節目を記念とお留め下さるような催しが成りますことを一同切に念じ居ります。

また、この機に重なる如くセンター事務所の移転の議が表出しました。それは、一月二十六日の管区布教委員長会の会議中その他の部で、某委員さんが本庁よりご来席の係長さんに「当教化センター事務所の移転要請」が発議されました。ご発議の要旨は「風光明媚な歴史的環境の地から下りて、時代の蠢きを直感する

地でセンター機能を発揮する指導のご計画は」。これに対して「当センター職員には大変な不自由をさせている。移転は懸案事項である。今後適する場処を探すように、厳しい財政時であるが検討をする」。併せ早速に数人の委員さんから、貸ビル業者等に尋ねてみてはとのお声もありました。

来るべき事がついに来たと、小職は些か法悦を覚えました。この事に就きましてもお気づきをぜひに、いつ時も早く稼動が出来ますよう重ねてご支援のほど。どうか宜敷くよろしく御願ひ申し上げます。

寺院は人里離れた静に在る方が相応しいが、センターは人里の動中に在るのセンター設立の意義からして親切でありましよう。人里の中には、エプロンがけ・仕事着のまままで相談にかけ込みたい人は大勢おられます。

お寺に行きたいが、どうも敷居が高く———気がね無用遠慮せずに来ればよいと寺側は思っているが、アンケートの返答にはそうはいかぬと。ともあれ、大衆は何を求めているかを早く知ることが大切です。

国土の広さから寺院数の割合を考えると、世界で最も密度の高い仏教国と言えましよう。この様な国に何故センターが必要とされたのか、また三十年も経過しながらさほど変化のないセンターの有りのままでもいいのか。

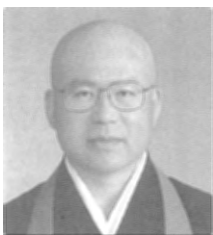
立ち上げの心を引継がれ、ご苦勞された歴代の諸老師に申訳なく忸怩たるものが去来します。この節目を機に、センターは宗門伝道の先鋒であることを再認識すべきであります。

釈尊も祖師方も、大衆の苦に接して道を説かれたから法が伝わったのでしよう。大衆の苦を横に見て教を流したのでは真は伝わりません。真は見せて聞かせて、共鳴があつてこそ、はじめて伝わるのではないでしようか。

主監室の隣—センター事務室の側に、十人は坐れて会合もできる部屋が在って、トイレは共同でもよいが駐車は三台か欲を云えば五台分あるといひなあ—。宝くじ当てようか。

むらかみ

教化主事挨拶



岡山県宗務所 野口祥善

”正しく生きる力の相続“

今日世界を揺り動かしている戦争、内紛、戦時中の特攻隊を思わせる自爆テロ。「殺すなかれ、殺させるなかれ」。すべての宗教の禁戒の中で一番に取り上げられるこの項目が、將に宗教の名のもとに破戒されているという悲惨。命の教育、魂の教育がないがしろにされ歪められている。自らの命を宿し、また慈しみ育ててくれた親を殺し、自らの命を分かち自らの命を削り育てた子を殺す。世界中の富を集め食料をかき集めて豊の限りを尽くしている日本人が、「殺すなかれ、殺させるなかれ」。の釈尊の一番の禁戒を犯している。私の今の命があるのは誰のお陰？生き物の命を頂戴しなければ私の命は維持できないのに、生かされている私は誰のお陰？又、そのことに気付かせてくれたのは誰のお陰？キリストは言われている「人はパンのみにて生きるものにあらず」と。人類は文化文明を持つことのできる動物である。文化文明は伝えられる伝統であり、又学び発展させられるものである。

釈尊も言われている。「諸行は無常である」しかし又「人は道を学ぶことができる」と。人生五十年と言われた時代から今は八十年近くになっているが、一代で見極められるものはたかが知れている。長年の歴史の風雪に耐えてきた真の知恵は、今を楽しめばよい人生に優るではないか『縁起に支えられ生かされている』教えに学ぶならば、我をも他をも生かし切つてゆく“という「正しく生きる力」の相続こそ釈尊の子孫の役割ではないだろうか。



広島県宗務所 林一成

”布教教化は葬式の間“

今、宗侶がお檀家様に注目されるのは葬式の間です。枕経から納骨に至るまでの間、遺族と仏縁を結ぶことになります。

多くの遺族は無常を感じており、仏門に導く最も適した時と思えます。

この時は、こと更教理を説かなくても遺族の心を癒し、故人の想い出を語ってあげれば良いでしよう。

聞いた話ですが、「うちのおっさんの式は、ありがたい」とお檀家様からいわれる宗侶の方がおられます。日頃から、仏さまの日暮らしをされている姿が浮かび最尊の布教教化だと思えます。

またこういう話も耳にします。「どがな偉いおっさんよりうちのおっさんに引導してもらおうのが一番ええ」菩提寺の和尚をひいき目で見ている証拠で肝に銘じるべきです。

昨年の現職研修の講師、丸子孝法老師より葬式の始まる前、通夜の席などで次のような法話の御指導を受けました。

「故人は戒法を受けて頂き、お釈迦さまより〇〇代目の仏弟子とされます。」と説明すれば、遺族側は僅かながらも式の要旨を理解できるといふ学ぶべきご提言でした。

今年の現職研修会は瑞応寺、檜崎通元老師を講師にお迎えして八大人覺を学習します。多数の宗侶の方にご参加頂きますようご案内します。



山口県宗務所
藤田和彦

”改めて感じたこと“

先日、ある人権学習の席で他宗教の方の挨拶の一説に耳を止めた。内容は忘れたが「憂いのそばに人が立っている優しさ」と言う言葉だ。「憂」は悲しみ、恐れ、哀れみ、病、心配のことだ。私は常に憂いのそばに立つ人間としてそのことを充分実感し意識しているか。「そばに立っている優しさ」はまさに四諦の教えなのだと改めて感じた言葉であった。

今朝、「朝がくると」という詩を小学校の3年生になる娘が朗読していた。まどみちおさんの詩だ。朝起きてから、ぼくが作ったものでない物に囲まれていることに対する気付きと恩にあふれたものだ。締めくくりは「今に大人になったら人の為に何かを作ることが出来るように学校へいく」(原文と違う)となっている。知恩と報恩。言い尽くされたことではあるが、学校には道徳以上の宗教教育がちゃんとあった。朗読を聞きながら改めて感じた朝であった。

多々良学園高等学校が曹洞宗宗門を根幹として一大飛躍の時を迎えている。私達はそのそばに立っている。

先達の恩を知りその恩に報いることは、我々の未来である子供達の為の環境作り、そして声援を送り続けること。改めて感じる私の「バカの壁」であった。



鳥取県宗務所

平澤峻山

”布教教化について“

鳥取県宗務所では、県青年会・県婦人会・県寺族会・県護持会・県師範会等々それぞれに研修・教化を実践されていて心強い限りであります。

今年度、新たに青少年教化員任命にあたり、より沢山の方に就任してもらい、若い力を発揮していただきたく思っております。

檀信徒本山研修会は七月六・九日、二班に分けて永平寺様で行います。当宗務所では初参加者に輪絡子を授与し毎回金筋を付けることにしております。そして



十回目で金の輪絡子を授与します。それが大変励みとなるようです。さらに要望により今回から、十五回目には表彰状と記念章を授与する事にしました。

混迷する現代に於いて、ますます宗教の重要性は増してきます。各方面に、老若男女を問わず求められています。週五日制という時間的余裕からも、宗教・寺へのニーズは増えると思われまます。学校では総合学習で、あるいは親子会、お寺へ坐禅をしに来る事例も少なからず聞きます。講演会などの外への働きかけと同様にいろいろな人を受け入れる開かれたお寺にするという意識も大事かと思えます。

またお寺に足遠い、働き盛りのおとうさん・おかあさん方にかに教化・布教できるかが肝要な課題ではないでしょうか。



島根第1宗務所

多田利昭

”今年の布教教化について“

宗門の布教教化方針である「まごころに生きる」とは、すべての人が仏心をもつこと、言い換えれば人間らしい心を持って生きていくことである。しかし、青少年の荒んだ心、無気力無責任で自己中心的な言動、特に十四歳以下の少年の凶悪事件の増発やわが子への虐待や殺傷事件等々見据えたとき、現代社会はますます末法の様相を呈してきたように感じるのは私だけではないと思う。二十一世紀は心の時代といわれるが、今世紀の科学の進歩は我々の想像を超える進歩があることは間違いない。前世紀でさえ、一刻の猶予も許されない深刻な状況なのだから、ますます混乱して行くであろう今世紀の行く末を考えれば身震いする思いである。先月宗務庁で開催された青少年教化指導者連絡協議会で、正信への精神に余念のない若い宗侶と一緒に青少年への教化指導について考える機会を得た。結論的には宗門檀信徒が先祖崇拜を宗教的

感情の柱にしている利点を最大限に活用して葬祭での家庭教育に力を入れていくことを話し合ったが、宗侶の資質の向上への真摯な道心が今後不可欠であることを痛感しました。わが宗務所も今月の布教講習会で葬祭時の布教教化について研修することになっていますが、今後も宗侶の現職研修会に力を入れ、宗侶の教化力を高める努力を計画に即して所長老師のご教導の下、役員員和敬して、宗門発展のために邁進していく決意です。どうかご指導よろしく申し上げます。



島根第2宗務所

森田裕光

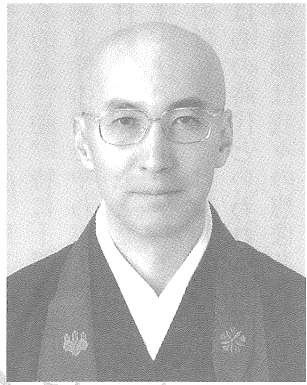
本年度教化のキーワードは「家庭」です。「家庭における信仰生活の復活」を如何に教化・啓発するかということ。一家」の制度が崩壊して、情報社会・高学歴社会に変容し、お年寄りの体験や知恵が家庭内で価値を失い、お年寄りが置き去りにされました。面倒な人間関係は回避され、核家族化が進んでいます。若い

夫婦の子供達は仏壇も無ければ、仏教に触れる機会もほとんど無い環境で育つこととなります。心配しなくても六十歳を過ぎれば自然に信仰心が芽生えるから、無理に青少年に働きかけなくても良い、との考え方もあるのかもしれないが、それは「法事・葬式さえすればよい」レベルの話でしかないと思う。生涯遊行の旅をされたお釈迦様は、「若者よ、何を悩むのか」と声をかけられている、その原点に立ち帰るべきであります。政教分離の壁を越え、鳥取県では学校の総合学習でお寺の坐禅体験をした、との報道がありました。聞けば同県では各所でそれが行われているとのこと。学校が変わりつつあるとの思いを強めました。こちらから学校へ直接お願いする訳にはいかないで、普段から担任の先生との交流を持つことが必要と教わった。結局、これからの課題は学校とか家という「集団」ではなく、「個」への対応がカギとなりましょう。それと同時に、青少年教化といえれば子供にばかり目を奪われがちですが、「人生の師」として胸を張り、人の道や仏の教えを、子や孫に機会を捉えて積極的に話しかけることが、家庭信仰復活のカギですよ、と腰が引けているお年寄りの方々に強力に呼びかけることも重要だと思ふ。

紙上法話

鳥取県 安国寺

森下慈孝



昨年末のNHK『紅白歌合戦』で大トリを務めたのは、SMAPの『世界に一つだけの花』でした。昨年3月に発売されたこの歌は、シングルCDでは3年ぶりとなる200万枚突破を記録しました。なぜこれほどのヒットになったのでしょうか。

人を花になぞらえて、競って「ナンバーワン」になるより、それぞれが個性を持った花を咲かせる「オンリーワン」であればいい。という歌詞が聞く人の共感を呼ぶのでしょうか。

『勝ち組』『負け組』という言葉がはやるように、現代社会は、成功した『勝ち組』と、それ以外の『負け組』という画一化された価値観で人を区別するようになりました。その中でた

とえ『負け組』になったとしても、人には自分の価値観で人生を捉えたいという気持ちがあります。それが「オンリーワン」という言葉に共鳴するのでしょうか。

TBSの『NEWS 23』で筑紫哲也キャスターが、「これは反戦歌だ」と紹介したことから、この歌には反戦歌というイメージもあります。

国際社会においても、「グローバルゼーション」と呼ばれる画一化された規準による競争で貧富の二極化が進み、最も豊かな20%の人たちが、全世界の生産物の86%を支配し、一方で最も貧しい20%の人たちにはわずか1%の生産物しか残らないと

世界に一つだけの花

唄・SMAP

No.1にならなくてもいい
もともと特別なONLY ONE

花屋の店先に並んだ
いろんな花を見ていた
ひとそれぞれ好みはあるけど
どれもみんなきれいだね
この中で誰が一番だなんて
争うこともしないで
バケツの中誇らしげに
しゃんと胸を張っている
それなのに僕ら人間は
どうしてこうも比べたがる？
一人一人違うのにその中で
一番になりたがる？

そうさ 僕らは
世界に一つだけの花
一人一人違う種を持つ
その花を咲かせることだけに
一生懸命になればいい

いう国連の報告書(一九九九年)があります。

おきざりにされた人たちは貧困の中で生きていかなければなりません。イラク戦争やアフガン戦争の原因となった無差別テロ。その許すべからざるテロも、多くは貧困にあえぐ国や地域が原因となつていることも否定できない事実なのです。

仏教では、ものごとを比較して判断する価値観を徹底して否定します。こうしたものの見方は相対の見といわれ、そうではなく個々の持つ長所も短所もそのままに受けとる絶対の見を教えられます。

絶対の見で見ると、花に一つとして同じ花がないように、人もものも、ありとあらゆるものが、世界に一つだけのかけがえない生命なのです。そしてこのことをよくよく承

知したうえで更に一歩進めなさいと教えられます。なぜなら、たとえかけがえない「オンリーワン」でも、自分自信にこだわりすぎれば執着になります。人は誰も自分自身が一番大切だからです。

若しひと

おのれを愛すべき

ものと知らば

つつしみて

おのれを護るべし

心あるものは

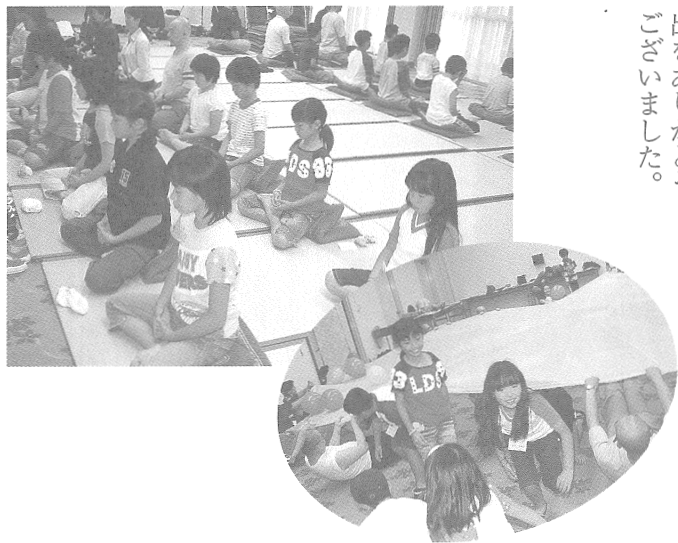
三時の一において

きびしく

おのれを省みるべし

(法句経)





さぎとかアリとキリギリスの話の時に、ねていたのは、わたしです。ごめんなさい。キャンドルサービスは、スタンツが本気でやりすぎてました、一班。もうちよつとふまじめにして、笑いを取りたかったなあ。↑個人意見。4班が、阪神の応援歌を唄っていました。蔵重さんが、わたしは、巨人ファンですと言っていました。わたしはカーブファンです。許して下さい。最後のサヨナラパーティーは、楽しかったです、反省が。おなかいっぱい食べました。最後に、あっさり帰ったのは、びつくりでした。

指導員、実行委員の方々、楽しい思い出がありました。

7月28日～7月30日に、親子ゼンインサマーセミナーがありました。僕は、初体験だったけど、6年だったから班長になりました。

そうしたら、お経や坐禅の指導が終わってはなしあっていたら、班のみんなも初めてで指導員の先生まで初めてでした。その時は、その班の人達のことをあんまり知らなかったけど、2日目ぐらいからその実体が明らかになったのか、その場に慣れたのか知らないけど、12chの幼い子の見るテレビを見ておどろいたり、歌を改造してへんな歌を作ったり、それをしながら女子の部屋に入ってしまった人がいてこの班ってちょつとおかしい人の集まりじゃないかと思いました。

弟の弘昌もえいきょうを受けて、「セクシーオヤジ。」とか言っていました。29日に、1階のロビーにゲームが置いてあって、それをして、三千円も使った。スパーボール2個の人がいました。それとか、マトリックスとかいうテレビを見て、サングラスをかけて、歩いていたり、6階の探検をしている人がいました。

29日の午後、みるくの里に行きましたが、小雨が降っていて、やることもなくてつまりませんでした。ひろ先生のお話の時には、なんとも睡魔がおそってききました。どうにか眠りませんでした。そのあとに、米子ハイットにもどって、班別行動になりました。覚えていません。その時にしたことは、覚えていません。



夕食が終わった後に、キャンドルサービスがありました。出し物は何にするかは僕達の班は、あいまいだったけど、歌というのは決まっていたけど、何にするか決まらずに、僕が六甲おろしと地上の星だったら歌えると言ったら、本当に六甲おろしを歌うことになってしまいました。そこで、ひろ先生に僕は分かるけど、班のみんなは分からないので、小澤君が聞いてきました。それでも不安だったので、特別ゲストで、ひろ先生夫妻や村上先生もいっしょに歌いました。その日の夜も、女子の部屋に入ってしまった。その朝も29日と同じようにやりました。ゲームの時間は、夜やったのとにたようなものでした。サヨナラパーティーの時は、各班の指導員の先生の話や名刺交かんをして終わりました。

とっても楽しかったです。

楽しかったゼンインサマー

小6 佐藤 宗良

第19回
親子ゼンインサマーセミナー
in鳥取・大山
7月28日(月)～30日(水)
平成15年



初めて参加して

指導員 諏訪 文哉

帰りの車の中はみんなの元気でよかった。それが開放感からか充実感からか定かではないが、たぶん両方だろう。メンバーは次男、三男と次男の友達三人。それに引率の私で計六名。わずかの期間でも集団生活は難しいものでわがままなどおせないが、そんな圧迫感を感じさせないようには上手にスケジュールを組んであるので、知らず知らずのうちに、仏教的素養が身に付くんだと感心させられた。その中に坐禅もさりげなく盛り込んであるし、ひろ先生の親しみある話から、教の広い豊かな考え方や、生き方を学び、また、統監老師から坐禅をする上で心構えなどを教わる。緊張を解きほぐすように網師本、高先生コンビのゲームを楽しむ、いや、一緒に遊んで子供のようにハッスルした。おなじみ林先生は独特の

キャラクターで、手品と腹話術、それにペープサートの披露され、熟練技を堪能最後のダーナの話が印象的で、布施の本当の意味をみんなが考えさせられたに違いない。

スタッフ多彩、内容充分のこの研修会に十九回目にして初めての参加とは恥ずかしい話だが、様子のわからないところへ以て、一班の指導員とは実際最初戸惑った。しかも相手は全員女の子。接し方に気を遣ったが、そんな取り越し苦労もキャンドルサービスの出し物など相談する頃にはすっかり無くなっていた。彼女達の一番人気が大佛寺、みるくの里のウォークラリーだったのは活動的な部分を大いにかき立てる企画なので領けるところだが、さらに川で魚を捕ったりなどのより自然に親しみたい気持ちを抱く子もいた。もし可能ならば次回は是非採り入れてほしい。連れてきた子供等はどんな具合か合間で眺めるととても楽しそうでのびのびと過ごしていたようだ。友達の中には、他宗の研修会にはない坐禅がたくたくて参加した子もあつた。期待以上の体験に感想文も事欠かないことだろう。

引率を縁に貴重な体験が出来、準備万端整えて戴いたセンターの皆々様、各先生方に今一度衷心より御礼申し上げると共に、この有り難い集いの輪をもつとつと広げなければならぬと思う。宗門の徒弟はもとより、お檀家の子供さん達も多く参加してもらえば、信念を持った命の尊さをわきまえた素晴らしい人間が育つのにとつくづく感じ入った。本当にありがとうございました。

初めて参加して

小6 土屋 しおり

わたしは、今年、初めて、「親子ゼンインサマーセミナー」に参加しました。予定表を見て、五時三十分、起床と書いてあるから、うわー、厳しそーだなーと思っていました。

大山に着いて周りは、みんな、ぼうずのおじさんばかりでした。やっぱり、ぼうずの集まりなんだなーと思いました。それから、わたしは、初めてする事がありました。お経と坐禅です。お経は、正座をして、意味のわからない、難しい言葉を読みました。初めてでした。坐禅も十五分間ずーっとすわったまま、ぼーっとしてました。ずっとすわったまま、活発なわたしにとつて、つらかったです。初めてでした。

マジックショーは、よく分からない言葉がでてきて、大人達にうけていました。でも、面白かったです。特にブリちゃん。ウォークラリーでは、たくさん神様にお願いしました。金はらわずに。きれいな森の中でウォークラリーができて、楽しかったです。おいしい水も飲めた事だし。

みるくの里では、牛が、「モオオッ」とすごい声で鳴いてました。びつくりしました。雨の中だったけど、色んな事ができました。ソフトクリームは、かなりおいしかったです。そこらへんのソフトクリームとは、訳がちがいました。かなり美味でした！それと、ひろ先生の話(う

禅ききく会

山口

人権擁護推進主事 山本昌男



平成十五年十一月二十七日。山口県防府市にある曹洞宗門関係の多々良学園高等学校にて、中国管区センターと山口県宗務所主催の「禅をきく会」が開催されました。

雨にもかかわらず、約七〇〇人の檀信徒が一同に集まり、満席状態の中熱気あふれる会場となりました。

この度「禅をきく会」が、多々良学園で開催されたことは大変意味深く、平成十六年の春には、現在の防府市国分寺町から防府市大道への移転が決まっております、現校舎との別れを飾る曹洞宗門の一大行事となったのです。

午前中は本尊上供に続き、松原徹心統監老師による法話と椅子坐禅。

優しい素敵な話でありながらも強い説得力があり、スムーズに椅子坐禅へとつながり、心が落ち着き、また自分を振り返る時間をいただきました。

昼食は残念ながら雨の為外に出ることができず、皆さん椅子に座ったままの食事でした。

午後からは、待ちに待ったバルセロナオリンピック金メダリストの吉田秀彦氏の講演。

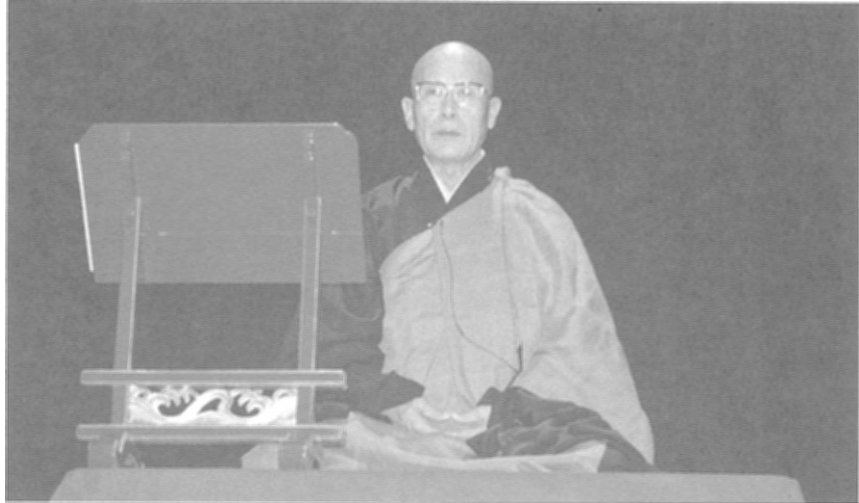
近くで見ると、思っていた以上に身長もあり、体格も見事なものでした。その反面、テレビで見ると試合の時には堂々と見えるのですが、演台に立つと緊張しているのかハンカチで額の汗を拭きながらの講演でした。

バルセロナオリンピックでの出来事や、柔道選手の日常生活の中からの話題が中心で、私達が日頃テレビで見ているスポーツとしての柔道ではなく、柔道をとおして鍛える精神や生き方という「やわらの道」を教えてくださいたいようなお話でした。

禅ききく会

島根

弘長寺檀徒 武田民三



「禅話と椅子坐禅指導」と題し曹洞宗中国管区教化センター統監松原徹心老師より坐禅のご指導がありました。

・調身(心)は調息 ・坐禅(佛教)は祇管打坐(只管打坐) ・非思量(思量を超えた智慧のはたらき) ・即心是佛

特に右記のことが心に残り感銘を受けた次第。

曹洞宗宗憲第三条に「本宗は、仏祖単伝の正法に遵い、只管打坐、即心是仏を承当することを宗旨とする」とありますように、坐禅を宗旨とするのであるからには我々曹洞宗檀徒の信仰生活の基本は先ず坐禅を実践することであり、そしてその純粋な姿こそが「即心是仏」を表現するものと教えられと思うと、なまはんなかな気持ちでは対処できないことと感じ入りました。

今回ご指導いただいた「椅子坐禅」は多くの人びとに坐禅を勧める現代的な便法だと理解しました。

禅は坐禅であって、禅を行ずる最も基本的なあなたが端坐であり、坐禅とは文字通り坐る禅を言うのだと教えられていましたので「結跏趺坐」することが坐禅

と認識していました。これこそ開かれた曹洞宗であるとあらためて認識いたしました。

坐禅を中心とした曹洞宗の教えを戴く私たち曹洞宗の檀信徒は、まず一日にたとえ少しの時間でも坐禅を実践するようになければ、との思いを強くいたしました。

二十一世紀は心の時代であり宗教の時代だともいわれています。世界的にも、さまざまなイデオロギーが乱立し、つねに対立し抗争し続けています。そして互いに自分を正義とし、相手を非難して止まないのです。何が真実で何が虚偽なのか、しっかりと見極め生きて行くことを求められる時代でもあると思います。

政治や経済も大切ではありますが、それだけではどうにもならないことがある。そこに気付かせてくれるのが信仰生活ではないのでしょうか。

「人は何故生まれてきたのか」「自分は何者であるか」これほど重大なテーマはないと思うのです。この課題を少しでも正しく知るために努力し求めて行きたいものと思っております。



平成十五年六月九日から十日にかけて、山口市湯田のホテルニュータナカにおいて青少年教化指導者研修会が開催された。内容は「青少年と教化」について。

講師はエッセイスト・日本ジャーナリスト会議会員の浜文字子先生、曹洞宗中国管区教化センター統監松原徹心老師、山口県宗務所副所長兼人権擁護推進主事(当時)蔵重恵昭老師、全日本科学漫才研究会村田直之先生。

今回の特別講師浜先生は出産の体験を元に、今の子育ては客観的な視点でとらえ子供の痛みを受け取っていない。だから親として主観的にとらえ、子供の喜び苦しみに共感する点をもっと重視しなければいけない、と講演された。また、最後にお寺へのお願いとして「本堂をもっと開放してほしい」「非行少年に声をかけてほしい」と締めくくられた。

村田先生は、科学に興味を持ってもらうために自ら考え出したというマジックを披露し、その場でマジックのネタと材料を配布された。



なお、今回はセンターより、各地の青少年活動をお互いに紹介しあってほしいとの観点から、活動紹介が行われた。山口県から磯部誠司師の活発な活動が報告され、青少年教化委員の励みになった。

半年を経過し、マジックは十五年度山口県内の合宿等イベントでかなり役にたったとの声を聞いている。私もこのマジックを某所にて五、六回披露した。いざずれもおおうけであった。実技指導があると活動に幅が出るので今後も取り入れていただけたらと思う。

山口県 善福寺 大野泰生

青少年教化指導者研修会



平成十五年九月八日、九日の両日、岡山県総社市、ウエルサンピア岡山にて布教師協議会・講習会が開催され、中国管区各地より諸老師、宗侶、寺族等七十余名が来岡され、四講師による講演、指導が行われました。

第一講は音楽文化研究者、長田暁二先生の「歌にひそむ仏心」と題しての講演でした。歌とは「詩」「曲」「唄」の三つの要素からなり、特に「詩」の部分を掘り下げてのお話で、誰もが知っている「しゃぼん玉」は作詞家野口雨情が長女を疫病で亡くした悲しみを乗り越えて作った詩。静かに反戦を訴えた「さとうきび畑」。ビートルズの「イエスタデー」よりも多くの人に愛されている「北国の春」。友を戦地に送る悲しみを唄った「惜別の唄」等、作詞された背景、時代、その思いを、キングレコードの音楽プロデューサーとして、長年にわたり曲を世に送り出してきた第一人者ならではの秘話を交えながらの講演でありました。

第二講は岡山県宗務所人権擁護推進主事、芳賀弘裕老師の「人権学習」では「

愛」の反対語は「憎しみ」ではなく「無関心」であるというマザーテレサの言葉をひかれ人の心が変わらないと世の中は変わってゆかないことをご講演いただきました。

第三講では中国管区教化センターの松原徹心老師より、経済や食の問題等幅広いテーマを古心からお説き頂いたり、僧侶・寺院に対するアンケートを交えての現実に即したお話を頂戴し、初日の日程を終了。

二日目第四講では全日本科学漫才研究会の村田直之先生の「マジック指導」。スプーン曲げに始まりトランプ、だまし絵等、身近な物を使った手品、偏光フィルムなど特殊な材料を使った実験などを、ユーモアたっぷりにご指導頂き、参加者一同も童心に帰って楽しんでの学習でした。

中国管区教化センターの皆様にも大変お世話になりました。布教にとつての指針を頂いた良き研修会でありました。ありがとうございます。

センター布教協議会・講習会

岡山県 寶鏡寺 樋口三城

集中伝道

集中伝道は広島県地蔵院住職林一成老師とセンター統監松原徹心、賛事の3名で6月11日～13日の3日間、鳥根県の隠岐島にておこないました。

6月11日、午後19時半～21時半、場所は西郷町西郷集会所での伝道でした。

聴衆64名。統監法話、林老師マジックと腹話術、蔵重映画上映の3本立て。6年ぶりの伝道とあって地元から大変好意的に迎えていただきました。2時間もの長丁場かつ蒸し暑い中、聴衆は熱心に耳を傾けられました。西郷町医光院山口老師、同副住職田村老師とも地域住民に信望厚く、“隠岐は神道の島であって仏教は出る幕はない”との噂も霧散した思いでした。

6月12日は午前10時～11時で西郷町双葉保育園にておこないました。

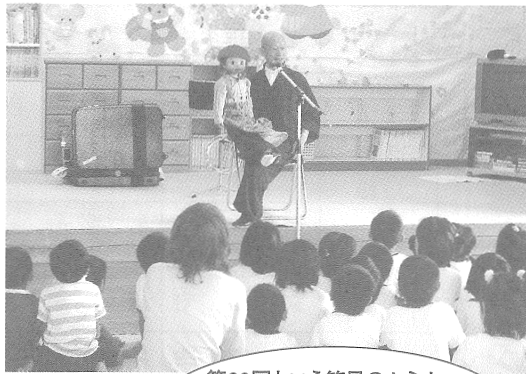
園児大人合わせて44名。曹洞宗地福寺保育園が前身。園長先生以下我々に大変理解を示されました。統監端坐指導、林老師マジックと腹話術、蔵重司会担当。端坐指導で子ども達が2分間余りとはいえ静かに坐ったのは奇跡的だったそうです。林老師のマジックは200以上のネタの中から選りすぐられたものばかりで、園児の集中力が途切れませんでした。

6月13日は午前10時～11時、西郷町隠岐共生学園第一保育所。

園児大人合わせて110名。隠岐で一番人数が多い保育所だそうです。統監端坐指導、林マジックと腹話術、蔵重司会の構成。土地柄本土からの転勤族やUターン組のお母さん達が多く、子育てにおいて知らない土地であるがゆえに不安を感じている、とのこと。こうしてお坊さんが来られ元気付けて下さることは心強く有難い、と園長先生はおっしゃいました。

鳥根第2宗務所長老師、教化主事老師や地元医光院山口老師、同副住職田村老師等々のご尽力により実現した今回の集中伝道、今後も管区の皆様方のご協力を賜りながら続けて行ければと思います。

記 蔵重



第20回という節目のセミナーです。内容・費用等充実したものとさせていただきます。奮ってご参加下さい。

第20回 親子ゼンインサマーセミナー

日	時	平成16年7月26日(月)～28日(水)
会場		鳥根県大田市「国民宿舎さんべ荘」
講師		ひろさちや先生他
参加費		小中学生10,000円 大人23,000円
対象		主に小中学生(興味のある方どなたでも)
申込先		教化センター
お問い合わせ先		申込・お問い合わせ先

青少年教化指導者研修会

日	時	平成16年6月15日(火) 正午受付13時開講 ～6月16日(水) 正午まで(1泊2日)
会場		鳥根県米子市「グランドホテル天水」
講師		未定
参加費		10,000円
対象		青少年教化員・青少年教化を志す宗侶
申込先		各宗務所
お問い合わせ先		教化センター

布教講習会

日	時	平成16年9月9日(木) 正午受付13時開講 ～9月10日(金) 正午まで(1泊2日)
会場		鳥根県米子市「グランドホテル天水」
講師		未定
参加費		10,000円
対象		布教師・宗門僧侶
申込先		各宗務所
お問い合わせ先		教化センター

婦人会 中国管区研修会に参加して

(倉敷市・於鷺羽ハイランドホテル)

松永貴子

九月十六日、十七日両日、標記研修会が三百余名の参加者のもと開催されました。

教化センター統監松原徹心老師「人生はお役目に生きることなり」と題して、会場の隅々まで、参加者全員に届くように、熱く、熱く話されました。

続いて岡山県人権擁護推進主事芳賀弘裕老師「人権学習」がありました。県内二つのハンセン病療養所における慰霊法要の際の元患者の方々との会話の中から、人権について話されました。



そして「これから、せめて遺骨の帰郷を助けてい。」と、静かに同感を求められました。
二日目、板橋禪師さまは、「良寛さん」のお話をされました。良寛さんは曹洞宗の僧で、亡くなられて三十年くらい

後から、世の中に語られるようになってきたこと。貞心尼との連歌の解説を聞きながら、その情景と心持ちを語られました。
禪師さまは「質問下さい。」「質問下さい。」と言われます。考えて

もみなかったこと。何をお尋ねすればいいのか。良寛さんに関する本を読んでもおくべきだった、不勉強でもいい、拙くてもいい、これまでの疑問を整理して、まとめておけばよかった、千載一遇の機会だったのにと、今でも質問できなかったことを後悔しています。
終わりに、研修会でのおみやげの包装紙で作ったコサージュが、次々と人と人の輪をつなぎ、広がったことをお知らせします。一人の会員が笠岡市でコサージュ製作講習会を提案。そこから県から教区へとつながり、寺院会員へ伝わりました。
ある寺院では、コサージュ作りの集いが、一回が二回、三回になり、昼食も皆で作ったりして、楽しい集いが持たれました。このことと、新旧役員が細かく役割を決め、それぞれの担当で誠意を尽くしたことが、研修会当番県を通して、今後の宗務所婦人会活動のパワーになると信ずるものであります。



中国管区教化センター平成16年度行事予定

4月13日～14日 4月19日 5月12日～13日 5月18日 5月31日 6月15日～16日 7月14日～15日 7月26日～28日 9月9日～10日 9月10日 10月2日 10月18日～19日 10月25日 11月16日 11月18日～19日 H17年 1月 2月 2月	全国教化センター役職員連絡協議会 教化センター企画委員会 人権三者協議会 教化センター布教師協議会 曹洞宗婦人会中国管区役員会 青少年教化指導者研修会(鳥取) 集中伝道 管区役職員人権学習会(山口) 第20回親子ゼンインサマーセミナー(島根・三瓶山) 布教協議会・講習会(鳥取) 布教師特設検定(中国) 禅をさく会(島根第一) 曹洞宗婦人会中国管区研修会(広島) 教化センター運営・企画委員会 集中伝道 禅をさく会(広島) 全国教化センター役職員連絡協議会 教化センターだより 21号編集会議 布教委員長会議 島根県布教講習会
---	--

【センター布教師】

岡山	2教区 29番	大通寺	柴口成浩	〒714-1202 小田郡矢掛町小林1815	☎(0866) 82-0909
広島	3教区 58番	宗光寺	垣井龍顕	〒723-0062 三原市本町3-11-1	☎(0848) 62-4719
山口	2教区 37番	安養寺	渡辺勝人	〒747-0825 防府市新田古前1246	☎(0835) 22-1865
山口	3教区 72番	真福寺	大野恭史	〒746-0062 周南市福川中市町6-27	☎(0834) 62-2760
鳥取	7教区 151番	安国寺	森下慈孝	〒683-0831 米子市寺町50	☎(0859) 22-3836
島根Ⅰ	1教区 236番	宝隆寺	和田善明	〒699-2302 瀬摩郡仁摩町宅野町1355	☎(0854) 88-2790
島根Ⅱ	9教区 187番	養善寺	西古孝道	〒699-1343 大原郡木次町湯村900	☎(0854) 48-0371

【センター役職員】

統監	松原徹心	光善寺	山口県宇部市西琴芝2-1-46	☎(0836) 21-5465
主監	村上邦雄	摩訶衍寺	〒722-0202 広島県尾道市原田町梶山田4338	☎(0848) 38-0656
賛事	藏重宏昭	玄濟寺内	〒753-0811 山口県山口市吉敷1584	☎(083) 922-4560
賛事	檀上一祥	吉祥寺内	〒722-2416 広島県豊田郡瀬戸町林686	☎(08452) 7-0719